

材木運び (当田町)

明治四十二年七月に建てた徳橋金吾さんの家の材木は、河和田地区の山から切り出され、大八車(かな車)と川流しで当田町まで運ばれていたことが、寿之おじいさん(八十七才)の幼い頃の思い出話と記録で分かりました。

金吾さんに頼まれた大工の小嶋与太郎さんは、早速家を建てる段取りをしました。

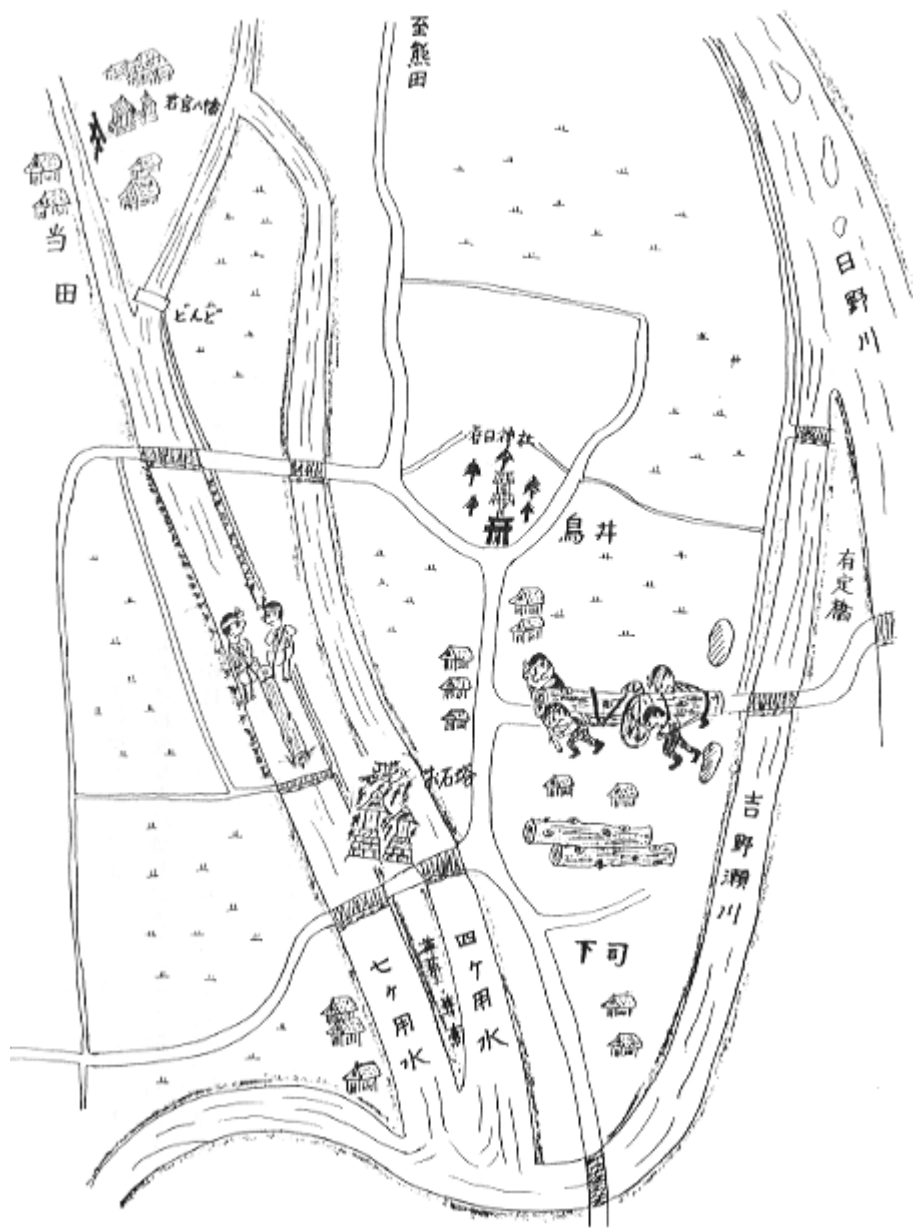
まず、河和田へ言つて樗の木を買い付けました。次に、木の枝を切り落とした材木を大八車に積み、転がり落ちないように、しっかりと丈夫な縄でしばりました。そして人足(力仕事を頼まれた男の人)が何人もかかって砂利道をガラガラ、ガラガラと河和田地区を通り抜け、北中山地区、中河地区、新横江地区、鯖江の町の中を通つて有定橋まで来ました。

その頃の有定橋は、有定町と鳥井町をむすぶ粗末な木の橋でした。また、吉野瀬川の木の橋は、もつと粗末な木の橋で大きな丸太を縦二つに割つてかけ、その上に木の板を並べただけの簡単なものでした。

その二つの橋を重い材木を積んだ大八車が行く、ようやく鳥井町に着きました。しかし、その先は野道で道幅が狭いために車は通れません。そこで熊谷重雄さんの空き地(鳥井町)にいったん材木を降ろし、全部運び終わるまで仮置きさせてもらいました。空になった大八車は、人夫に引かれて河和田へ戻ります。

このようにして、河和田と鳥井の間を何回も往復しながら材木を運び終えると、お石塔付近から七ヶ用水路へ落し入れました。

現在、下司町、鳥井町から当田町へ行く道は、七ヶ用水路を埋めて道路にしたと言われるだけであつて、当時の七ヶ用水路は幅が十尺(三、三メートル)



トル) ほどあり、吉野瀬川の支流にもなるので、水量が豊富で材木流しには都合がよかつたのです。しかし、どうしても水に浮かない重い木は、人夫が川の中に入って押したり、引いたりして運びました。

そして、大工の小嶋与太郎さんの家の前で川から引き上げられ、徳橋金吾さんの家の後ろに作られた大工小屋の中へ運び込まれました。そして櫂の木の皮がひとりでに落ちるまで乾かしてから、木造が始められました。

昔は、今のように立派な道路も橋も無く、また一度に沢山の材木を運ぶトラックも機械も無かつたので、家を一軒建てるのも容易ではありませんでした。

このように大勢の人の力を借りて建てられた立派な瓦葺きの家も地震で傾き、現在は商人に買い取られて石川県金沢市寺町を南の方へ上ったところにあるそば屋の家になっています。